噴火から100年
四十三山の植生を観察

噴火から100年が経過した四十三山の魅力を探る「100年の森　四十三山を歩こう」（洞爺湖ビジターセンター・火山科学館主催）が行われ、緑豊かな森林に生まれ変わった四十三山の変貌を観察しました。

説明を聞きながら四十三山を歩く参加者の皆さん

当日は、元トーヤ温泉ホテル横の洞爺湖温泉公共駐車場を出発する四十三山フットパスコース約４㌔を、約３時間ほどかけて歩きました。

参加者は、同センターの藤井さんから、植生などについて話を聞き、その回復力に驚きの表情を見せていました。

地域の「食」でアピール
ジオパーク推進協議会総会

洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会（会長・真屋敏春洞爺湖町町長）の総会が、６月11日、洞爺湖町役場防災研修ホールで開かれ、真屋町長をはじめ、構成市町である伊達市、豊浦町、壮瞥町の首長ら約20人が参加しました。

総会では、①ジオパークを通じ防災教育活動を促進させること②地元の食材を利用した「食」のメニューを開発し地域をアピールすること③来年夏ごろに予定されている世界ジオパークネットワークの再審査に向け、更なる整備を進めることなどが承認されました。

議論が交わされたジオパーク推進協議会総会

洞爺中全校生徒
墨の文化を学ぶ

６月20日洞爺中学校で、芸術文化交流会が行われ、全校生徒29人が、書や墨絵などを学びました。

書写の授業を使って行われた同会では、ＮＰＯ法人国際芸術文化協会の高尾桂さん、青木佐智子さん、同洞爺湖支部の小杉徳芳さんと書道家の岸さちこさんらが、生徒一人ひとりに声をかけながら、基礎的技術を指導しました。

生徒らは、初めての墨絵体験に戸惑いながらも、個性豊かな作品を短時間で仕上げました。

生徒にお手本を見せる小杉徳芳さん

生徒の作品は、７月４日～13日まで開催の役場ロビー展に出品されています。

避難訓練で線路を渡る本町保育所の園児たち

６月22日、本町保育所で、昨年の秋に続いて地震津波避難訓練を行い、園児たち65人が保育士らの指導で、役場までの約1.5㌔を歩いて避難しました。

訓練は、保育中に地震が発生したとの想定で、園児たちが一斉に机の下に避難。津波警報の発令後、駅の交流センター通路が地震で閉鎖されている場合を考えて、今回は駅まで行って戻って虻田神社前の踏切を渡るコースとなりました。

相馬所長は「スムーズにできました。気をつけないといけない所が確認できた」と訓練を振返りました。

本町保育所
地震、津波避難訓練を実施